

「柏崎の橋」

7 鵜川橋

現在「鵜川橋」は国道8号線に架かるものと、大久保一丁目と中浜一丁目の境のものがある。大久保と中浜の境にある鵜川橋は、かつて北国街道をつなぐ大切な橋であった。

後者の鵜川橋は「柏崎編年史」によると、貞享元年（1684）に柏崎四分六厘・納屋町一分八厘・中浜一分八厘・下宿一分八厘の費用割合で作られた。長さ二十二間横二間三尺という当時では大きい橋だったためか「大橋」といった。

長谷川新五左衛門・松田権右衛門・柏崎の市川氏・比角四谷の丸田氏等がこの橋を架けるのに尽力し、また当時砂山だった西本町辺りを開発したという。

「柏崎文庫」には「古ほろぎ橋を廃して夫より一町廿五間川下に引き下り新らしき橋を架す」とあり、柏崎町と大久保をつなぐための新たな橋だったことがわかる。



「柏崎町古絵図」に記されている鵜川橋付近の図。左下に「鵜川橋」、右下に「鵜川」と見える。



大正4年の鵜川橋(柏崎市史資料集近現代篇3上)



現在の鵜川橋

橋は明治17年7月の架け替え、明治30年8月の豪雨による流失、大正12年2月の架け替えなどを経て、昭和29年7月に長さ40m幅5mのコンクリートの橋に架け替えられた。

昭和58年12月、鵜川の激特事業にともない長さ62.5m幅12mの現在の橋となった。

●参考にした本

「柏崎市史 中巻」柏崎市史編さん委員会 編(224 K ㍿)

「柏崎市史資料集 近現代篇」柏崎市史編さん委員会 編(224 K ㍿)

「柏崎文庫」8巻 関甲子次郎 著(080 ㍿)

「柏崎編年史」新沢佳大 編著(224 ㍿)

「柏崎の民俗と余祿」山田良平 (382 ㍿)

「柏崎町古絵図」(292 K ㍿)